

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果について

4月18日に小学校6年生、中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。このほど、調査結果およびそのデータ分析がまとまりました。本校の結果をお知らせします。

## 【国語における平均正答率】

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			本校	神奈川県(公立)	全国(公立)	
全体		14	67	66	67.2	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	69.2	70.1	71.2
		(2)情報の扱い方に関する事項	2	58.7	64.3	63.4
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	76.9	70.4	72.6
		B 書くこと	1	21.2	25.6	26.7
		C 読むこと	3	72.4	70.4	71.2
評価の観点	知識・技能	7	66.2	68.5	68.9	
	思考・判断・表現	7	67.0	64.0	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	73.1	73.4	73.6	
	短答式	2	59.6	61.2	62.7	
	記述式	2	51.9	48.2	51.1	

## 【算数における平均正答率】

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			本校	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体		16	64	63	62.5
学習指導要領の内容	A 数と計算	6	67.3	67.1	67.3
	B 図形	4	50.5	50.0	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	71.6	72.3	70.9
	D データの活用	3	69.9	65.2	65.5
評価の観点	知識・技能	9	67.3	67.8	67.2
	思考・判断・表現	7	59.9	57.2	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	63.9	59.2	57.7
	短答式	7	73.4	74.8	74.7
	記述式	4	48.0	47.8	47.3

※一つの問題が複数の区分に該当する場合がありますため、それぞれの分類について、各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

## 全体の傾向

全体の結果として、今年度の本校の平均正答率は、国語・算数の2教科において、神奈川県、全国の平均正答率とほぼ同じ水準という結果になりました。

### 国語

「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」において、神奈川県、全国の平均正答率よりも高い結果となりました。「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」ことや、「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」ことを、今後の学習においても意図的に指導し、伸ばしていくようにします。

「知識及び技能」の「(2) 情報の扱い方に関する事項」を問う問題においては、平均点を下回る結果となりました。中でも「原因と結果など情報と情報との関係について理解する」ことや「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」が難しかったようです。課題として、新聞記事や社会科資料など、物事を図表とともに説明する文章に日常的に触れる機会を増やしていくことが必要だと思われます。

### 算数

「D データの活用」において神奈川県、全国の平均正答率よりも高い結果となりました。

「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述すること」や、「二次元の表から、条件に合う数を読み取ること」など、「グラフや表を読み取る」学習が定着していることが伺えました。

課題としては、「B 図形」の「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること」で、平均点を大きく下回りました。問題に対して自分の考えをもち筋道を立てて説明する力を伸ばしていけるようにしていきます。

### 児童質問紙調査より

質問事項に対して児童が「①当てはまる②どちらかといえば当てはまる③どちらかといえば当てはまらない④当てはまらない」と回答しました。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」という質問に対して、①②と回答した児童が合わせて94.5%となりました。多く教職員が児童のよさを認めることにより、児童自身も自己有用感を味わっていることが分かります。また、「いじめは、どんな理由があってもいけない」という質問に対して①②と回答した児童が合わせて100%でした。学校としていじめを認めない雰囲気ができあがっていることが分かります。さらに、「人の役に立つ人間になりたい」という質問に対して①②と回答した児童が合わせて98.2%でした。自分の将来に向けて前向きに考えている児童が多いことが分かります。

しかし、「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」という質問に対して①と回答した児童は、20.4%、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」という質問に対して①と回答した児童は、29.6%でした。自分の考えをもったり、友達の意見を認めたりする経験をたくさん積み、友達と話し合うことのよさを感じて充実した話し合い活動ができるように支援していきます。

教職員一同、子どもたちのよりよい成長のために引き続き支援していきます。